

マザーハウス

たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。

移送・出所される方は、必ずご一報ください。

2019

8 月号

表紙…きりさん

- 2 理事長挨拶
- 7 社会の声
- 9 特別コーナー
- 13 ささきみつおコーナー
- 14 Lovely DAYS

- 15 育児日記
- 15 塀の中のたより
- 21 健康相談窓口
- 21 プリズムアート倶楽部
- 22 つぶやき！
- 22 みんなの！回復プログラム 入門
- 23 回復プログラム 入門
- 23 行事予定
- 23 お知らせ

理事長挨拶

皆さん、こんにちは。毎日、暑い日々が続いておりますが、熱中症にはくれぐれも気を付けてください。

近況報告

先日、弁護士の依頼で、社会復帰したその日に窃盗をして逮捕された方の面会に行きました。その後、検事と話をし、不起訴処分が私が引き受けることになりましたが、そこからが大変でした。

この弁護士は、面会に同行した後は全く連絡がつかず、丸投げの状況なので、検事と私で調整して釈放時間を決め、東京地方検察庁に迎えに行きました。検事の話によれば、その方は常習で犯罪行為をしているとのことなので、現在、T区役所の再犯防止担当係長、マザーハウス、クリニックで連携をして回復治療に当たっております。毎日、私に報告書

を書いて送ってもらっていますが、日々、様々なことを学び、気付きを頂いているようです。彼の話を聞くと、毎回、出所して福祉事務所に行くものの、どこもともに相手をしてくれなかったそうです。今回、初めて福祉関係の区役所職員たちとテーブルを囲み、面談し、自分の声を聴いてくれた、と言っていました。マザーハウスのメンバーも、彼に対して話しかけ、彼の声を聴いています。孤独が一番辛いことだと思います。

また、七月末には、情状証人に立った方が執行猶予となり、引き受けました。東京地方検察庁の検事が私のことを弁護士に紹介してください、その方と出会いました。彼も孤独でした。早速、S区役所の再犯防止担当係長に連絡をして協力要請をし、いつもお世話になっているO係長に連絡して手続きをして頂き、マザーハウスが契約している部屋に入居して頂きました。

しかし、この暑さで熱中症の疑いがあったので、すぐに病院に行き、対応して頂きました。迅速に医療券を発行して頂けたおかげで、大事に至らずに済みました。ケースワーカーとも連携して、彼の回復のためのプログラムを実践していきたいです。

同じ頃、女子刑務所から社会復帰してきたHさんからも連絡を頂きました。彼女も、福祉事務所に行ったら、たらい回しをされて、

非常に困っている状況でした。他の方と同様に、その日に住む家がないのです。東京には、女性が安全に生活できる無料定額宿泊所が無いようです。

B区役所の再犯防止担当係長に連絡を取り、生活保護の担当部署に繋げて頂きました。ところが、Hさんと一緒に行ったところ、相談係の担当者が、「女性の一時保護をする住居が無いのです。あなた、運が悪かったねー」と言い放ったのです。それまでもこの相談係の態度に我慢していましたが、この言葉を聴いて、堪忍袋の緒が切れてしまいました。この区のN区長に連絡を取り、抗議させて頂きました。さすがに無責任な言葉であり、福祉を担当している者が言うべき言葉ではないと私は思うのです。運が良い、悪いで生活保護を申請する人は誰もおらず、困っているから申請するのです。

早速、再犯防止の担当係長が生活保護の担当係長に連絡を取ってください、謝罪されました。そして、このB区役所が無料定額宿泊所に彼女を入れようとしたので、「そこでは貧困ビジネスに巻き込まれる可能性があることで、そのような劣悪な環境に入居させることは、納得がいきません」と話し、私の知人が支配人をしているゲストハウスを紹介し、入居が決まりました。

このことを通しても分かるように、再犯防止推進法が施行されていますが、ほとんど機

能していないのが現状です。生活保護申請に丸一日かかるなんて、異常だと思っています。私には、「目の前で叫び、救いを求めている人の声を全く聴いてない」と感じられます。

是非、皆さんにお願いがあります。マザーハウス名義の住宅が現在、十三部屋ありますが、全く足りず、一時宿泊のためのシェルターが必要な状況です。国、行政は現状、機能していないので、皆さんのご協力を頂き、必要な住居を借りたく、ご寄付を頂ければ幸いです。このことによって救われ、更生する人がいます。私は、人は人によって回復すると思います。人の優しさ、思いやり、触れ合いによって、大切なことを学んでいくと思うのです。

寄付・募金の受付先は、「みずほ銀行 本所支店 普通口座 2043684 特定非営利活動法人マザーハウス」です。皆さんの愛の行為が人を救います。よろしくお願い致します。



NARITA さん

相手のことを想像する

受刑者の皆さん、何度もお伝えしています、社会では、人に何かを依頼すれば費用が発生します。それは常識です。当たり前のことを当たり前にできるから、更生できるのではないのでしょうか。お金がないから会費が払えないけど、これをコピーして送ってください、何々を調べてください、という手紙が絶えません。皆さんよく考えて頂きたいです。皆さんも報奨金を頂いています。とても少ないのは良く分かっています。でも、その中から、八十二円切手一枚ずつでも、きちんと会費にあててくださる方がいます。この方は自分を変え、当たり前のことを実践しようとしているのだと思います。

この頃、「社会復帰したら支払います」という方が多いですが、どれだけの方が実践するでしょうか？ 刑務所で実践しない人が、社会復帰してから実践できるわけがないと思います。

そして、たよりの表紙には毎号、「移送・出所される方は、必ずご一報ください」とメッセージを入れていますが、毎月、不在のため返送されるたよりがあります。たった一冊分だからいいや、と考えるのでしょうか。同じ考えの人がたくさんいるので、塵も積もれば山となる、というように、毎月たくさんの経

費が無駄になっています。自分さえ良ければいい、という考えなのだと思います。このような方が更生できると思いますか。社会では通用しないと思います。

勘違いしないで頂きたいのは、お金がほしい、節約したいから言っているのではないことです。もちろん、活動の上で、お金はとても大切に欠かせないものですが、何より、社会の常識や当たり前のことを当たり前にしなければ更生は難しいと思います。

皆さん、想像してみてください。マザーハウスでは、〇〇局、〇〇係と分かれています。それは少しでも早く対応できるよう、宛名で手紙を分けるために、命名しています。はつきり言って、それらの局・係の数よりも、それらの仕事を実際に担当しているスタッフはずっと少ないです。つまり、複数の局・係の仕事を一人で抱えているということです。だから、〇〇だけを担当している、それにかかりつきりになれる、というわけではなく、日夜、様々な仕事を同時進行で行っています。終わらなければ、朝から晩まで、徹夜の日もあります。もちろん、マザーハウスの専属スタッフではなく、ボランティアで、マザーハウスの他に仕事ややるべきことがあります。その前提で考えてみてください。

今日はこれとこれをしよう、と、ギリギリのスケジュールを立てながら、事務所に着くと、机の上に、その日に届いた手紙など一

緒に、戻ってきたたよりの封筒が山積みになっていきます。まずはこの山積みのたよりを処理しないと、その日のやるべきことに取り掛かれません。まるまる捨てることは勿体ないので、中身を、たよりやその他の同封物ごとにバラします。使える機会があれば（講演会で配る等）、使います。そして、たよりが戻ってきた人を、名簿で、まずは「所在不明」とします。その方が文通していれば、文通相手にも知らせます。文通相手がその受刑者に出した手紙も戻ってくる可能性があります。その場合も、文通相手に知らせて、返します。一定期間、所在不明の方がいれば、出所・退会扱いとして、その対応もします。文通相手と連絡が取れない場合は、忘れないようにメモに書き、後でまた連絡を取れるように試みます。他にも、その方に関して身元引受等での手続きもされていれば、それらも対応します。

こういった作業を何通分が行ってから、その日のやるべき作業に取り掛かります。さらに、「文通相手を変えてください」などの要望の手紙があれば、一つひとつ対応します。

分かりやすく事務の例を挙げましたが、他にも、忙しい合間を縫って数時間だけでも発送作業に来てくださる方、少しでも力になればと言って文通ボランティアに参加してくださる方、活動には参加できなくても寄付をしてくださる方、本当に色々な方が時間とお金を犠牲にして支えてくださり、マザーハウ

スが成り立っています。このことを忘れないで頂きたいです。その方々が、戻ってきた山積みのたよりや、好き勝手に書かれた手紙を読んでどう思うか、考えて頂きたいです。

皆さんも体験していると思いますが、悲しんだり傷ついたり、慣れることはありません。こういったことが、一度二度ではなく、毎月繰り返されるのです。もちろん喜びもたくさんありますが、同じくらい傷つくことの多い中、それでもお金と時間と労力を割いてくださっているのです。

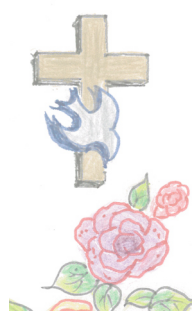
ちなみに、「これでは更生にならないから、相手を変えてください」という手紙が多いです。何のために文通しているのでしょうか。相手と関わる、社会と繋がるためではないでしょうか。愚痴聞きやカウンセリングのようなものではありません。自分と繋がりを持つた人を大切にするためではないでしょうか。人を大切にできないから、犯罪をしたのではないのでしょうか。

もちろん、マザーハウスのペア決めは絶対、と無理強いするつもりはありません。きちんとした事情があって、事務局と相談を重ねた方は、しっかり対応しています。ただ、突然、「相手の方がこんな方で合わないから、変えてください」と、何か出会い系のようなものと勘違いしているのではないかと思えるような手紙を出されても、困ります。趣旨を理解されていないのではないかと思います。

「〇〇してください」と言われても、何かの便利なシステムで、ポンとできるわけではないのです。スタッフやボランティアが、皆さんの言葉一つひとつに喜んだり、傷ついたりしながら、対応しています。

自分の前に知らない人が立っていると考えるみてください。その人は、皆さんと同じように、生活や仕事や様々な事情を抱えながら、時間とお金をかけて、皆さんのためにできることをしようと想着て、皆さんの前に面と向かって立っています。その人に向かって、いきなり、無償であれしてください、これしてください、あなたは私の更生には役に立たないからもういいですよ、他の人を紹介してください、と言えますか。皆さんが逆の立場に立った時、そのような常識のない人と交流しますか。そのことを深く想着て頂きたいです。

また、『カトリック生活』『百万人の福音』『幸いな人』を読んでいる皆さん、是非、感想文を送って頂けると幸いです。これらは社会の方の寄付によって、皆さんに送ることができています。マザーハウスとしても、社会の善意の方々に、皆さんの読んだ感想をお届けしたいと考えています。



華厳さん

女子刑務所の現状

マザーハウスでは、以前、女性の方が逮捕された際に、関係者と下着を差し入れに行ったことがあります。警察署ではブラジャーの使用が認められませんでした。何故なのか聞いたら、自殺予防であると言われました。拘留所や刑務所では使用しているのに、と疑問に思いました。自殺予防であるなら、拘留所や刑務所でも使用できないはずだと思うのです。

警察署では刑事の多くが男性であり、この暑い中、ブラジャーをつけずに男性の前で取り調べを受けることは、女性にとっては苦痛なのではないでしょうか。皆さんはどう思いますか？

先日、女子刑務所の体験者からお話を聞く機会がありました。正直、びっくりしました。

その方の話では、拘留所・刑務所に入るとき、身体検査がありますが、とても屈辱的なことを現在もしているのです。飛行機に乗った方ならお分かりだと思いますが、洋服を着たままでも身体検査が可能なのに、拘留所・刑務所では、全裸にした上、恥部の検査もあるそうです。それも、私の知っている言い方で、股割りという方法です。

簡単に説明すると、鏡を地面に置いて、その上に股を広げて立つ、ということです。今の時代にこのような行為をさせるとは、どういう人権感覚なのでしょう？

また、拘留所では、生理用品を一日に四つしか使用できず、刑務所においては、自分で購入できる受刑者は市販のものが買える一方で、お金が無い受刑者は市販のものが買えず、刑務所が支給する官物品を使用することになっていますが、これがとんでもない代物だそうです。

さらに、丁刑では、受刑者からの依頼で差し入れをしているにもかかわらず、マザーハウスを差し入れ業者として判断し、不当な扱いをしているとのこと。これまでにも、丁刑に対し、古本募金に関すること等で申し入れをしたことが何度ありますが、受刑者の更生改善のために様々なことをしても、それを妨害してくると感じました。

勉強のための参考書をマザーハウスに依頼して、少しでも安く書籍を手に入れることさえ、許可しないのです。さらに、絵画を学んだりするのに必要な画用紙(スケッチブック)の購入さえ、許可しない状況です。どうしてもなのでしょうか？私には理解できませんが、全てをご存知である神様が解決してくださると信じています。

「種まき」と「もし火」のたとえ

私が受刑中に学んだことを書きたいと思います。

聖書の中に、「また、イエスは言われた。『もし火を持って来るのは、升の下や寝台の下に置くためだろうか。燭台の上に置くためではないか。隠れているもので、あらわにならないものはなく、秘められたもので、公にならないものはない。聞く耳のある物は聞きなさい』」(マルコ四章二十一〜二十三)とあります。

この「もし火のたとえ」については、そもそも「もし火」が何にたとえられているのか、一切説明してくれません。前半と後半の話も繋がっていない、関係ないように聞こえます。「もし火を持って来るのは、升の下や寝台の下に置くためだろうか。燭台の上に置くためではないか」……普通、この後に続くとしたら、「だから、置くべきところに置くべきものを置きなさい」「適材適所だ」といったような言葉だと思っています。

ところが、実際に続くのは、「隠れているもので、あらわにならないものではなく、秘められたもので、公にならないものはない」という言葉です。さらに、その後出て来る、「聞く耳のある者は聞きなさい」という言葉も、繋がりがよく分かりません。

しかし直前で、イエス様は、神の言葉を「種」にたとえています。

「聞きなさい、種まきが種をまきに出て行った。まいているうちに、道ばたに落ちた種があった。すると、鳥がきて食べてしまった。ほかの種は土の薄い石地に落ちた。そこは土が深くないので、すぐ芽を出したが、日が上ると焼けて、根がないために枯れてしまった。ほかの種はいばらの中に落ちた。すると、いばらが伸びて、ふさいでしまったので、実を結ばなかった。ほかの種は良い地に落ちた。そしてはえて、育って、ますます実を結び、三十倍、六十倍、百倍にもなった」。そして言われた、『聞く耳のある者は聞くがよい』。

イエスがひとりになられた時、そばにいた者たちが、十二弟子と共に、これらの譬（たとえ）について尋ねた。そこでイエスは言われた、『あなたがたには神の国の奥義が授けられているが、ほかの者たちには、すべてが譬で語られる。それは、彼らは見るには見るが、認めず、聞くには聞くが、悟らず、悔い改めてゆるされることがない』ためである。』また彼らに言われた、『あなたがたはこの譬がわからないのか。それでは、どうしてすべての譬がわかるだろうか。』

種まきは御言をまくのである。道ばたに御言がまかれたとは、こういう人たちのことである。すなわち、御言を聞くと、すぐにサタ

ンがきて、彼らの中にまかれた御言を、奪って行くのである。同じように、石地にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞くと、すぐに喜んで受けるが、自分の中に根がないので、しばらく続くだけである。そののち、御言のために困難や迫害が起ってくる、すぐつまずいてしまう。また、いばらの中にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞くが、世の心づかいと、富の惑わしと、その他いろいろな欲とがはいってきて、御言をふさぐので、実を結ばなくなる。また、良い地にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞いて受け入れ、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶのである』(マルコ四章三〜二十節)

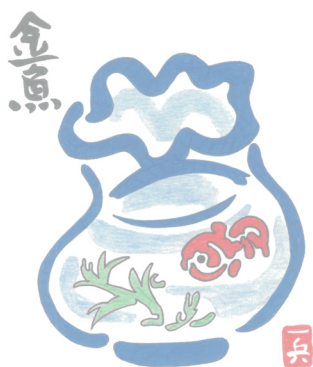
この部分を読むと、その後に続く「もし火のたとえ」では、神の言葉が「もし火」にたとえられていると考えられます。種まきのたとえでは、御言葉である「種」が、ふさわしくない土地：道ばたや石地にもまかれましたが、もし火のたとえでは、御言葉である「もし火」が然るべき場所、部屋全体を照らす燭台の上に置かれます。

隠したいものが、御言葉という光によってあらわにされ、公にされる。けれども、部屋に隠しているものがある人は、燭台の上にともし火を置くのを避けようとする。見られては困る、公にされては困るものがあるから、御言葉を心の真ん中に置きたくない。

それは、イエス様のたとえを理解しなかった弟子たちの心情、群衆の心情をあらわしているのかもしれませんが。神様はあらゆる土地に、イスラエル人にも異邦人にも、御言葉の種をまかれます。私たちの好きな人にも嫌いな人にも、種をまきます。

しかし、選ばれたつもりの私たちは、実際は、神の言葉がまかれても受け入れられず、枯らしたり、踏みつけたりしている現実があります。実際には都合の良い聞き方しかしてないように。そんな心の闇をあらわにされるイエス様の厳しい言葉：聞きたくない、知りたくないと呼びます。それでも、イエス様は言ってきます。「聞く耳のある者は聞きなさい!」。これは、感動的というより、うんと厳しい言葉だと思います。

私は言いたいです。回復・更生のために日々、努力している人を潰そうとする刑務所の状況を神様はよく知っている。だから私は逃げずに戦い続けて行きます。



一兵さん

社会の声

獄中で聖書と出会って

★今年一月に行われた、当事者スタッフKさんと理事長の対談の内容をご紹介します。

(先月号のつづき…)

人として相對する

五

マザーハウスの活動をしていると、どうしても勘違いしてしまう部分が出てきてしまうと思うんですね。自分はやっているんだって。一生懸命やっているんだ。自分は頑張っているんだ。そう、自分で捉えちゃうんですね。僕は、それは傲慢だと思っている。その判断をするのは、自分ではなくて、第三者の方です。第三者の方がその人の姿を見て、ああ本当にこの人は努力しているんだな、頑張っているんだなって。それだったら良いと思うんです。でも、自分はやっているんだから褒められて当たり前、支援されて当たり前なんだってという風になったら、これは危ないと思います。

仲間がそうなった時に、なかなか面と向かって注意するのは厳しいですね。僕は平気で言いますが、何故そういう厳しいことを取って言うかっていったら、マザー・テレサが、愛は痛いんです、傷つくんです、厳しいんですって言ったからです。本当にあなたを愛しているから、そういった厳しさ、痛さを感じる言葉も出てくる。それは僕自身も経験している。やっぱり、怒られることもあるし、これはダメですって言われることもある。でもそういう厳しさもある中で、やっぱり、マザーハウスで色んなことをさせて頂いて、色んな人と出会って、交流させて頂いている。感謝です。

先日またよりの放送でボランティアさんが来てくださいましたが、どうですか。

K

楽しいです。有難いし楽しいし、温かい。

五

僕はそういう社会になってほしい。目の前の人が前科者だ、何か障害を持つ人だ、とか、そういうことに関係なく、関わりを持つ。そこにキリストがいて、そういうキリストの触

れ合いの中で、人として相對していると思います。これは、相手が犯罪者だと思ったら、できないと思います。相手は人、同じ人間であると思えないと…。

例えば、マリアカフェを作ったのも、僕だけではなくて、一人ひとりにとって、楽しく触れ合いながら自分の居場所になればいいなあ、そういう思いがあります。

K

今、実際に、やっと自分もマリアカフェに馴染んできたっていう感じですね。家はあるんだけど、カフェも家、みたいな(笑)。そういう感じになってきています。

門は叩くもの

五

Kさんに、「この方の面倒を看て頂けませんか」とお願いした方がいますよね。なかなか、全く赤の他人である高齢者の方と一緒に住んで、面倒を看るって大変だと思います。僕は受刑中、高齢受刑者の介護をしていたのでよく分かるんですけど…Kさんをお願いしましたよね。

K

はい。

五

受けてくれましたよね。

K

はい。

五

僕はその時、嬉しかった。七十歳を超えたお爺ちゃん、二十円の賽銭を盗んで、それで警察に逮捕されて、拘留所に入れられて……っていう方なんですけど、検察官は「窃盗の累犯として起訴する」と。そうすると、完全に（執行猶予がない）実刑判決ですよ。僕はその検察官に電話して、「検察庁では入り口支援、出口支援やってやっているのに、何でこのお爺ちゃんを捕まえなくちゃならないんですか」って言いました。最高検察庁のある方が、「検察庁でもちゃんと入り口支援をやっています」と、そういうお話をしていたので。で、その「起訴する」と言った検察官とやり取りする中で、「じゃあ五十嵐さん、この方を社会に戻した時に誰が面倒を見るんですか」って言われました。誰が面倒を看ますかって言われた以上、僕も腹をくくって、「私が面倒を看ますよ。一筆書いたっていいです」と言いました。「本当に面倒看ますか?」「看ますよ。今までも僕、彼の面倒を看ていたの、これからも看ます。逃げやしないですよ」って。最終的に、裁判では検察官は懲役刑を求刑したんですけど、幸いにして執行猶

予の判決を頂いて、そのお爺ちゃんが出ました。

けれど、彼はA区に住んでいたんですが、A区役所では、逮捕された時点で生活保護の廃止をしてしまったものですから、当然、ご飯もお金も何も無い状態です。本来では、そういう場合、生活保護の一時停止というものをしてくださって、出てきたらもう一回受けられるんですが……。僕はもうそこでA区役所とケンカですよ。区長さんの奥さんが保護司をされている上、職員には保護司が八人くらいいらっしゃるらしいです。八人いて、お爺ちゃんを緊急保護にもつけない。そういう保護司さんがいるっていうことに僕はびっくりしました。でも、それを言っても仕方ないから、あるところに頼んで、そちらの役所が受けてくれました。

それで今は、Kさんが、お爺ちゃんの面倒を看ながら一緒に住んでいます。これは凄いことだと思います。目の前の人を愛するっていうことで。そのことを実際に自分で実践することは、なかなかできないことです。別に、ヨイショするつもりはないですが、みんな、目の前にそういう人がいたら避けて通るんです。その場に居てくれる人がどれだけいるかですよ。

K

自分一人の力じゃできないので、スタッフみんなが助けたりしてくれて、できています。

五

それが愛ですよ。聖書に書いてあります。「わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか」（第一ヨハネ三章十八節）って。そのお爺ちゃんがそこに居て、そのお爺ちゃんを、当事者の仲間がみんな気にかけて、「爺（じい）」って呼んで、一緒に生きる。教会と一緒にです。そのお爺ちゃんのために、みんなが……。

そして、「あ、Kさんがやっているんだ、俺も一緒にやらなくちゃ」って……やっぱり先頭に立った人間が、そういうことをやる、一歩進む勇気があるからこそ、みんなに広がっていく。社会もそうです。マザーハウスもそうです。被害者側とか、社会の側から言えば、何で犯罪者集団を受け入れて、何で世話しなくちゃならないのって、そう思っている人もいると思います。だけど、それでも僕はガンガン門を叩く。やはり誰かがやらないと、開かないです。聖書の言葉にも「門を叩きなさい」（マタイ七章七節）ってあります。

そうしたら、このイグナチオ教会は開いてくれた。「開けてください」ってやったら、「受刑者のためのミサもやりましょう」って言うてくれたんです。それも、菊地大司教がわざわざ司式までしてくれて。凄いなと思いますよね。相手にしてくれたんですから。さらに、バチカン大使まで来てくださって、「私の誕生日を受刑者のためのミサと一緒に迎えた

い」って言うてくださって。それでお話も：大使のユーチューブ（※動画配信サイト）を見たのですが、普段は、メッセージは英語で話されているんですね。だけど、受刑者のためのミサでは、全部日本語で話してくださいました。それだけ思い入れが強いのかなと思いましたね。大使が菊地大司教におっしゃったらしいです。「私は絶対、このミサに行きたい」って。そして来てくださった。門は叩くものだと思います。

今までできなかった体験

五 みんなと一緒にやっていく中で、例えば、全く知らない大学に行って、その学生さんと触れ合って、その人たちが話を聞いてくれたりとか：そういう機会を頂けることが増えてきました。去年の終わり頃には、学園祭に参加させて頂きましたよね。

K

マザーハウスに来て、今までできなかった経験っていっぱいしているんですよ。その中の一つが、大学の学園祭でコーヒーを売りに行ったことですよね。普段だったら、若い年代の子は、自分らに見向きもしないです。それが一緒になって、一緒に何か楽しんでやってくれたので、本当に楽しかったし、また来

たいなと思ったし、自分から関わるんじゃないって、向こうも関わってくれている、受け入れてくれてるって考えると、本当に有難かったです。

五

やはり、なかなか学生さんと一緒に文化祭でコーヒー販売なんて、ほとんど有り得ないことなんです。ただ、その先生が僕のことを講義で呼んでくれたり、色々お付き合いしてくださったりする中で、学生さんたちも一緒にやりたいっていうことで、この企画が立ち上がりました。

マザーハウスのメンバーと一緒に五人で行ったんですけど、帰りにはその学生さんたちと一緒に食事をして、交流をすることができて、とても良かったです。

（おわり）



丁刑 Kさん

特別コーナー

にのみやさをりさん 講演原稿

★今年三月、性犯罪をなくす会（チーム上谷）で、にのみやさをりさんが講演された内容をご紹介します（二十五年目にして初めて、公の場で自身の性被害についてお話をされたとのことです）。

（先月号のつづき…）

あなたが、それでも生きてゆこう、
と思えば、

死が訪れるその日まで、
いかようにも歩いていける

一つ。性についての話をするのは、まるで恥か何かのように思われている節が、この社会にはあります。でも、そういった習慣が、性犯罪について被害者が語ることも躊躇

わせ、いわば傷を癒す障害となっていると言
えるのではないかと私は思っています。

被害について語ること、被害で受けた傷に
ついて語ることを避けていては、いつまでも
傷は膿んだままになる可能性が大きい。恥な
どではない、汚れなどでもない、それが赤の
他人からの強姦にしろ、信賴していた人間か
らの被害にしろ、近親姦にしろ、語ってはい
けない話などではないはずです。

あなたの傍に話せる相手はいないでしょう
か？それはあなたの親かもしれない、兄弟か
もしれない、友かもしれない、あるいは、赤
の他人であるはずの精神科医かもしれない、
ボランティアのメンバーかもしれない。最初
は「こんな人！」と嫌悪を抱いた相手が、あ
なたにとって、いずれかけがえのない相手と
なるのかもしれない。

誰があなたにとって話ができる相手になる
のか、私には分からないけれど、でも、待つ
ているばかりでも人と巡り合うことはできな
いし、ただやみくもに悲鳴を上げたって助け
てもらえるわけじゃない。話ができる相手を見
つけ出すには、色んなしんどさが伴うと思
う。けれど、いくら時間がかかっても、時間
をかけるだけの価値はある、と、私は思っ
ています。

この世界には、答えがくつきり、きちんと
出ることもあります。例えば、算数やら数学

やら、そんな数字の計算式には必ず、答えと
いうものが在りますね。方程式を辿れば、決
まった答えに辿り着く。

しかし、人間の心や体は方程式では解けな
い。だから何かに辿り着こうとしたら、当然、
とてつもない時間を必要としたり、労力を必
要としたりします。

もし今、あなたが、性犯罪被害に巻き込ま
れ、今まさに真つ暗闇のど真ん中に座り込ん
でいるのなら。慌てなくていい。焦らなくて
いい。周囲の雑音がどうしたって気になるだ
ろうけれど、それでも敢えて言うなら、今
は、あなたはあなたの心臓の音だけ信じれば
いい。あなたが痛くて苦しくて悲しくて辛く
て、喘いでいるときに、それでも必死に、こ
こで終わるものか、終わってなるものか、と
動き続ける自分の心臓の音を。今は生きてい
るだけで、ただそこに存在しているだけでい
い。何かしなくちゃ、なんて思わなくていい。
涙も涸れ果て、声も涸れ果て、もうだめだと思
わずにはいられない時を、一体何度越えた
らいいんだろう、何度越えたら光が見えるん
だろう。信じるなんて疲れた、と思わず言っ
てしまうことがあるだろう。いくらでも言え
ばいい。いくらでも。

それでも、信じられなくても何でも、絶対
に、絶対に日は昇ります。あなたのその部屋
にも、必ず夜明けの光が射してくる。必ず。
きつと時間はかかる、きつと、長い長い時間

が。それでも、やっぱり日は昇るんです。あ
なたの上にも私の足元にも。

性犯罪に巻き込まれたから汚れた、なんて、
とんでもない。性犯罪に巻き込まれたために
失うものは、確かに大きい。それでもか、と
いうほどに。でも、失わないで生きていける
人生なんていうのも、存在はしない。

そして、あなたが、それでも生きてゆこう、
と思えばええすれば、死が訪れるその日まで、
いかようにも歩いていける。自分にその気さ
えあれば。あなたも、私も。

余談ですが、私が最初の妊娠出産をした頃
：性犯罪被害に遭い、それによってPTSD
を抱え込んだ女性が妊娠し、妊婦となった時、
そういった過去の体験やPTSDなどを踏ま
えての処置、あるいは治療を施してくれる病
院は、関東圏に少なくとも一つある、という
状況でした。また、入院施設はないものの、
それを踏まえての指導をしてくれる施設も、
数えるほどですが、ありました。

私は残念ながら、切迫流産や前置胎盤等と
いった絶対安静で過ごさなければならぬ妊
娠状況だったために、これら施設が東京等に
あることを知りながらも、そこを利用するこ
とはできませんでした。当時私が知っている
限りで、一つ既にあつた、ということは、今
はもっと増えているかもしれません。私はそ
うであることを願います。

性犯罪の被害に遭った女性に限って、私が見聞きした範囲で触れるなら、もう結婚はもちろん妊娠も何も自分にはあり得ない話、と思えてしまうことが多いようです。しかし、そんなことはないです。

確かに困難は山ほどあります。被害に遭った当時の記憶がフラッシュバックするため、異性との性行為に支障が生じたり、そもそもパートナーと日常を営むということ自体に困難が伴います。けれど、不可能ではない。可能性は決してゼロではないです。ゼロではない、というところに、どれほど自分を賭けてみるのか、それはもう、その人次第だと思うけれど、やってみないで最初から諦めるより、信じてみる方がいいと私は思います。もちろん違う生き方だってあります。十人十色です。

どちらにしても言えることは、自分の道は自分でしか切り拓くことはできない。それに尽きます。

いくら周囲に恵まれ、周囲に助けられても、それらの差し伸べられる手に気付くのは自分、気付かなければそれで終わり。そしてまた、いくら手が差し伸べられても、立ちあがるのは自分の足です。他人が立たせてくれるわけではない。

はつきり言って、私は特別な人間でも強い人間でもありません。でも、初めから強い人間

なんていうのはいません。自分の弱さも醜さも受け入れることができて初めて、見えてくるものがあるように、弱さも強さも、それらが適当に交じり合って織り上がっているのが人間です。あなたも、そのあなたも、あなたも、あなたも、そしてこの私も。

また、ヒトは一人ですが、独りではないです。どんなにぼろぼろになっても、自分が生きたいと思うなら、そこから這い上がることは可能です。不可能じゃない。決して。傷は消えないだろう、けれど、それを自分なりの形で受け止め、そこからまた歩いて行くことは、できます。今、信じられなくても、いくら信じられなくても、それでも今日は、明日は、平等に、誰の上にも必ず来るのですから。



光りんさん「みんなで、仲良く、食べよ！」

性犯罪加害者との対話を

そんな私が何故、今、加害者と対話を始めたのか。それは、少し時間を遡りますが、十年ほど前から思っていたことでもあります。加害者と対話できないか、と。

そもそも私は、自分の被害体験から五、六年した時に、加害者である人から謝罪されたことがあります。その人は身体を九の字に折って、深々頭を下げました。何度も何度も、その謝罪は、私の中を素通りしました。何故だろう。考えました。そこで気付きました。加害者は、レイプ被害だけを取り上げて謝罪しているんですね。ごめんなさい、悪かった、と。でも、私はそれだけを求めているのではなかったのです。被害後からずっと続く、私の滅茶苦茶になった人生そのものに、謝罪してほしかった。丸ごと、取り戻せるなら取り戻したかった。

ここに大きな隔たりがあります。被害者と加害者との間の隔たり、です。この隔たりは何故、生まれたのだろう。私はずっとそのことに、疑問を感じていました。

何故、私だったのか。被害に遭った人なら、必ず思うことなんじゃないかと思うんです。何故、私がこんな目に遭わなきゃならなかったのか、と。私もそうでした。でもそれは、

被害だけに終わらない、被害後ずっとずっと続く人生丸ごとについて、そう思うんです。被害者は。でも、加害者はそんなことに思い至らない。

この隔たりは、何だろう、と、何故私だったのかという問いを含め、何故この隔たりは生まれてしまうのだろう、と。それが知りたいたと思います。それが、十数年前のことです。

私が実際に加害者と対話を始める以前、私は同じ性犯罪被害者たちと知り合う機会がありました。同じ性犯罪被害者に声を掛け、被害者同士、集ってもらい、私の写真とコラボレーションしていた時期です。五年ほどの時間でした。それは、貴重な時間でした。自分は独りじゃないんだと、気付かせてもらいました。十人いれば十通りの被害、傷、痛みがあるのだな、ということをつくづく教えてもらいました。そうして最初は互いに共感し合えた被害者同士でした。が、気付いたら、仲間同士の「比較」が始まっていました。

あの人より私の方が。私よりあのの方が。こうなると、足の引っ張り合いになりかねません。被害者だけで集うことに、限界を感じました。

そんな風に被害者たちとの対話を経験し、そこから一度離れて、私は日々を過ごしていました。その間も、一人でも性犯罪被害者を

減らしたい、という思いは変わらずにありました。そして、はっとしたのです。再犯率がこれだけ高い性犯罪は、加害者がたった一人減るだけでも被害者が数人減るんじゃないか、と。やはり、加害者と対話したい。私は強くそう思いました。

でも、自分は加害者だ、犯罪者だ、なんて、名乗りをあげてくれる誰かと出会う機会はほとんどなく……。当たり前です。日本で加害者がカミングアウトする機会や場など、ほとんどありませんでしたから。

でも、数年前、小澤雅人監督による映画「月光」が作られた折、加害者臨床に携わっている斉藤章佳先生が存在を知りました。そんな職業があることも、私はその時初めて知りました。

そして、一昨年の春、思い余って私から斉藤先生に声を掛けました。加害者と対話したいのですが、と。斉藤先生は最初驚かれましたが、先生のお計らいで、私は、かつて加害者となったことのある人たちと対面することが叶いました。そうして大体、月に一度ほど対話の機会を得、今に至ります。

対話してくる中で、気付いたことを例えば一つ挙げるとすると、かつて加害者となった方々のほとんどが、自分の被害者について知らないということ。顔も覚えていない。だから、彼らに「一日一分でもいいから、被害

者のことを思ってください、祈ってください」と頼んでも、なかなかそれは具体化されないのです。

被害者のことを彼らは覚えていないから、被害者像が具体化されない。そうすると、祈りや想像もうまく巡らすことができない。やがて、被害者を思い浮かべることさえ、しなくなってしまう。記憶からすぼん、と、被害者が抜け落ちてゆく。

被害者が四六時中、加害者や事件のこと、被害のことを考えてしまうのとは、正反対の様相です。この隔たり、埋めることはできないのだろうか。

どうしようもなく隔たりがあるのと同時に、被害者と加害者には似通った状況も見られることに気付きました。それは、被害あるいは加害後の、当事者らの孤立です。

被害者は、被害後、様々なトラウマやパニック、フラッシュバックといったものに襲われ、その症状が深刻化すればするほど、社会と関わるのが難しくなってゆきます。本来ならば、そういう立場の人間にこそ、社会との関わりや社会からの手が必要なのに、関わりが難しくなってしまう。孤立してしまう。そうになると、被害者の状況はもっともっと深刻化してゆきます。言ってみれば、悪循環がそこに生まれます。

では、加害者はどうかと言えば、加害後、再犯を防ぐためには社会との関わりが重要であるにも関わらず、性犯罪をしたことによる社会からの極度の偏見が、彼らを孤立させます。そうになると、彼らの再犯率は格段に上がってしまう。加害者そして被害者の孤立。悪循環。

この構図、何とか変えることはできないのだろうか。隔たりと相似。隔たりを埋めると同時に、この加害者と被害者の孤立を何とか防ぐ方法はないのか。私は今、それらのことを思いながら対話を続けています。

私は先に申し上げた通り、今は二人の子供とパートナーと日々を営んでいます。PTSDと解離性障害を背負って、世界がモノクロに見えるようになったことがきっかけで、独学で始めたモノクロ写真も、今では、なくてはならないものとして私のかたわらにあります。

でも、ここまで来るのに、四半世紀がかかりました。被害から今年で二十五年目です。長い道のりでした。そして、私の今日は、日常は、ここからまだ、続きます。

最後にもう一つ。性被害は、性暴力は、人間であることを破壊します。木端微塵にします。また、被害後に被害者が置かれた環境によつては、酷い二次被害を受け、トラウマが深刻化します。つまりそれはどういうことか。

ヒトのアイダにいらなくなるということですね。人間でいられなくなる、と言い換えてもいい。人間という字は、ヒトのアイダ、と書きます。人の間にいてこそ人間なんです。

これで私の話を、終わりにしたいと思います。耳を傾けてくださり、有難うございました。

(おわり)

ささきみつお コーナー

祈りの力

ノーベル生理学・医学賞受賞者のアレクシス・カレル医師は、次のように語っている。

「祈りは人間が生み出さうる最も強力なエネルギーである。それは地球の引力と同じ現実的な力である。医師としての私は、多数の

人々があらゆる他の療法で失敗した後に、祈りという厳粛な努力によって疾病や憂鬱から救われた例を見ている。

祈りは、ラジウムのように、自己エネルギーを作り出す発光体である。人間は祈りながら、自分の有限なエネルギーを増やそうとする。

祈りは宇宙を回転させている無限の原動力と結合する。われわれはこの力の一部が必要なだけ自己に配分されるようにと祈る。このように祈るだけで、われわれの肉体的な欠陥は満たされ、強められ、癒されて立ち上がる事ができる。

熱烈な祈りによって神に話しかけると、精神や肉体はともに快方へと向かっていく。わずかに一瞬の祈りでも、必ず何らかの良い結果が、祈った人にもたらされるのである」



NS50さん
「マグダラのマリア」

* ブログ : <http://ixsasaki.ti-da.net/>

神への祈りが健康を左右することは、各方面の実験から医学的にも証明されている。キリスト教の癒しの集会においては、医学的に不可能とされている病が、祈りによってたくさん癒されている。

私共の数人の小さな祈り会でも、最近、車いすに乗って来た方が癒され、空の車いすを押して歩いて帰ったり、韓国から末期がんの患者さんが参加し、癒されて帰国したり、ということが起きている。

祈りが戦いの勝敗を左右することは、聖書に書かれている数々の歴史的史実からも明らかである。祈りが裁判の勝敗を左右することも、長年にわたり私は弁護士として体験してきた。将棋の勝敗でさえも祈りが決め手になると、「神武以来の天才」と言われた棋士・加藤一二三さんは、その著書『幸福の一手』で語っている。

このように、祈りはあらゆる分野においてその効果を発揮している。特に、福音伝道の分野においては、祈りの力は絶大である。「福音を伝えるために最も大切なことを三つ教えてください」という質問に対して、ビリー・グラハム師は、「第一に、祈れ。第二に、祈れ。第三に、祈れ」と答えている。

知人のビジネススマンに福音を語ってきたが、なかなか信じてくれなかった。ある時、事業が破綻し、彼は夜逃げして行方が分から

なくなつた。私は心配して彼のために祈り続けた。数か月後、会いたいという連絡があり、事務所近くの喫茶店でホームレス姿のボロボロの彼と再会した。彼は私と対面した途端に泣き出し、嗚咽とともに泣き続けた。

「すいません、なぜか涙が止まらないんです」「男なのにこんなに泣いて恥ずかしいです」「悲しくて泣いているんじゃないです、嬉しくて泣いているんです」「自殺の死に場所を探して彷徨っていましたが、死にきれず戻ってきました」「どうしても生きたいんです。キリストを信じます。イエス様以外に私を救ってくださる方はいないことが分かりました」。私が一言もしゃべらないのに、彼はキリストを信じて永遠の命を受け取った。

祈りは、神と人を繋ぐ生命線（ライフライン）である。だから、聖書には、「絶えず祈りなさい」「ひたすら祈り続けなさい」「夜を徹して祈りなさい」「朝早く起きて祈りなさい」「断食して祈りなさい」…要するに、「祈れ、祈れ、祈れ」と書かれている。

神は人との交わりを求めている。人に、祈りによる神との直接の交わりを通して、もつと神と親しくなり、神の命と祝福を無限に受けて欲しいのである。その結果、その人を通して神の業が行われていく。

「目をさまして、感謝のうちに祈り、ひたすら祈り続けなさい」（コロサイ四章二節）

ブログ：<https://ameblo.jp/npo-motherhouse/>

理事長の奥さんによる Lovely DAYS

当事者Mさんがこぼした不満が、まわりまわって私の耳にも届き、その内容に一晩ムカムカ、悶々として、ちょうど次の日がMさんの誕生日だったので、「傲慢」Tシャツを買ってプレゼントしよう、勢いで購入したのですが、時間が経つにつれて、怒っている私も傲慢だなと反省しました。

結果、Mさんとは「ごめんね」と仲直りしたのですが、この買ってしまった「傲慢」Tシャツをどうしようと考えていたら、「是非欲しい！」と手を挙げた当事者Kさん。「傲慢」Tシャツを着て教会に行きたいとのこと。着てくれる人が見つかり助かりました。黄色いTシャツにでかい文字、かなり目立っています（笑）。



理事長の奥さんによる

育児日記

先日、妹達をバギーに乗せて通園しているとき、A君と言いい合いになりました。

赤信号で待っている時にA君が横断歩道に出ていたので、「危ないから白い線まで下がって!」と言うと、「いいんだよ、でも!」と不機嫌そうに言ったので、「そうなんだ、じゃ幼稚園終わったら、おまわりさんに来てもらうから、A君直接聞いてくれる?」と言うと、「そんなことしたら、バギーとママ、もやすよ!」と言うので、「えー!もやされちゃうんだ、じゃあ明日の朝ごはん作れないわ、ごめんね!」と言ったら、「ゆっくりあるくよ!」と不機嫌そうにゆっくり歩いていました。でも、幼稚園に着くとご機嫌です。

大人気ない私ですが、後で思い返したら、対等に会話をしていることに一人笑いをしてしまいました。

長女のKちゃんは、とにかくA君が大好きで、幼稚園や外で一緒に遊んでいて姿が見えなくなると、「Aくんは!?Aくんどこにいったの?Aくんどこ(A君のところ)にいきたい!」とお兄ちゃんラブです。

大きくなったら大きいプールに入っ
て、大きい自転車に乗りたそうです。
大きいプールに入れるように、今、ト
イレトレーニングをしています。

次女のRちゃんは、一番気が強く、
いつも毅然としています。お兄ちゃん
お姉ちゃんに歯向かいます。この前は、
おもちゃの救急車を投げようとしてい
ました(汗)。泣かせてしまった時や、
誰かが泣いている時は、頭をなでなで
してあげる優しい一面があります。

Rちゃん自身が泣く時は、床に突っ
伏して懺悔姿で泣くので、とっても可
愛いです!何をしてもお兄ちゃんお姉
ちゃんに可愛がられています。仲良く
遊んでくれるのがとっても嬉しいです
が、家の中の鬼ごっこだけは、マン
ションで音が響くので少し困ります!



塀の中のたより

—受刑者からのお手紙—

教育受講のすすめ

Y 刑 S さん

最近、自分自身の向上に繋がるように、ど
んな教育でも受講してみようと思い、生活
をしています。

先日、教育の職員さんから告知を受けまし
た。なんと、グループ教誨に受かったのです。
結構、難関です。もちろん、担当のオヤジの
押しもあつたことかと思えます。その思いを
裏切らないよう、これからも大人しく生活し
ていこうと思っています。

ちなみに現在、教科教育という教育も受
講中です。内容は、小・中学校レベルの勉強
をしています。小・中学校とも、ろくすっぽ

行っていないかったため、今の私のレベルは小学校四年生です（笑）。恥ずかしいですが、今はとても楽しく勉強をしています。ただ漠然と受刑生活を送っている方がいましたら、何か教育を受けてみては如何ですか。とても楽しいですよ。自分のためにも。

我慢した分だけ：

御禿様さん

私は、養護工場（※介護の必要な受刑者たちが行く工場）の掃夫（※洗濯したり、ご飯を配ったりする、いわゆるお世話係）として受刑生活をスタートさせました。

しかし、その親方（※工場でリーダー的立場を務める受刑者）とソリが合いませんでした。親方を敵に回して良い訳がありません。その工場での生活はわずか四か月で終わりました（就業拒否）。

懲罰を受けた私は、金属を扱う生産工場へ行きました。そこで感じたのは、「ザ・懲役」でした。

その工場で揉まれていくうち、元いた工場のことを思い出し、「あの時、ああしていればもっと上手くやれていたかも…」と後悔するようになりました。同時に、「いつか必ず、

（どこかしらの）掃夫に返り咲く！！」と目標を立て、自分自身の「改善更生」と併せて日々を過ごすようにしていました。

そして、しばらくした後、私がボイラーの職業訓練を受けることになったのを機に、「内掃工場」（※主に草むしりなど）へ転業になりました。それで、俄然やる気が出てきた私は、作業に訓練にと、必死に頑張りました（訓練は無事卒業でき、資格を二つ取れました）。

そうやって過ごしていくうち、私はいつの間にか親方になっていました。仲の良い同囚は、「もう出所まで悠々自適だな」と言ってくれましたが、私は「やっぱり掃夫になりたい…」と。そうすると、「何言ってるの？親方になったのに、何でもたわざわざ新しい環境に行つて、下番手からやりたがるの？」と呆れられました。だって仕方がありません、目標なんだもの（笑）。

そうこうしているうちに、五月某日、担当がいきなり、「お前の仕事を次の人間に引き継いでおけ」と。私がすかさず、「と、いうことはつまり？」と聞き返すと、「まあ、沙汰を待て。とにかく一週間以内に頼む」と。

そう言った担当はなんと、翌日の作業途中から早退し、長期休暇となつてしまいました（私は忌引と予想しました）。そこからは生きた心地がしませんでした。

そして今、私は：新たな場所で、掃夫として作業しています！！目標が達成できたのです。諸先生方、仲良くしてくれた同囚、家族：皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。読者の皆さんへ。何があっても、我慢すれば、その分だけ良いことは必ずあります！皆さんに幸多かれ！！

自分が最も無知で無力であることを認め、知ること

M 刑 N さん

さて、工場が変わったことに伴い、それ迄、夜間個室で生活していたのが、共同室での生活に変わりました。

個室では、自分のペースで生活できていましたが、共同室では、他人同士で生活しなければならぬので、官で決められた規則の他に、部屋ごとに「決め事」があります。トイレの掃除のやり方、部屋の掃除の時の箒の使い方、食器の洗い方など、色々細かい点で共通の認識を持つためのルールがあります。トラブルを避けるための大切なことです。

しかし、長く一人部屋で生活してきた身には、戸惑うことばかりで、とても大変です。同室の者から厳しい言葉を投げられることも

ありますが、これも修行、と反発せずに素直に受け入れるよう、心掛けています。周囲の人が言ってくれる言葉は、神様が私のことを思っている人の口を通して言ってくれていることと思い、言ってくれた人がどんなに年下であつたり、少々理不尽かと思うような言い方をされたりしても、「はい」と言って聞き、最後に必ず「有難うございます」と礼を言うようにしています。神様が言ってくださっているのだから（口を借りて）、素直に、そして心から礼を言えるし、聞き入れることができます。

そのおかげで、当初グクシヤクしていた関係も、今ではすっかり打ち解け、和氣藹藹（わきあいあい）と生活しております。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」（第一テサロニケ五章十六、十八節）という聖句を実践することの大切さを、身をもって知りました。一つの「証」を得ることができました。

どんなにきついことを言われても、感謝し、その人を恨むのではなく、その人のために祈ることの大切さを知りました。自分が最も無知で無力であることを認め、知ること、人間関係が好転することを体験しました。本当に有難いことです。



一兵さん

家族の記憶

A 刑 H さん

私は生後五日で乳児院に預けられ、そこが二才までの施設だったので、二、十八才は養護施設で生活しました。といっても、小さい頃のことはあまり覚えていません。

親元から離れて生活するようになり、不満を覚え始めたのは、小学五年の頃だったと思います。施設の方に、施設で生活している理由を聞いても、教えてくれませんでした。かといって、親に直接聞く勇氣もありませんでした（怖かったから…）。

私の親（父・母）は、氣に入らないことがあると、すぐに手を出してきます。私は五人兄弟の一番下なのですが、何故か私にだけ手を出してくるのです。もちろん、施設に入ったのも私だけでした。いつか、上の兄弟（兄・姉）も来てくれる、と信じていましたが、いつになっても来てくれませんでした。兄弟に会えるのは春・夏休み、正月ぐらいでした。会えるのは本当に嬉しかったです。でも、嬉しかったけど、嬉しいの裏側には恐怖が待っていました。施設があるS市から、（家族のいる）N市までの車の中で泣いていた記憶があります。今も覚えている、一番怖かったのは、真冬に雪の中に埋められたことです（五

才ぐらいだったと思います）。皆さん、想像してみてください。雪に埋まっている自分の姿を…。恐怖ですよ。

中学生になっても、私にとって一番怖いものは、「母」でした。父は幼い頃に離婚しています。中学生になってからは、休みになると祖母の家に帰ることになったので、あまり母に会わずに済みました。

小学五年に戻ります。施設にいることに不満を覚えた原因は「いじめ」でした。初めは相手にしていませんでした。ですが、私が何も言わずにいると、どんどんエスカレートしていき、我慢ができなくなった私は、ついには手を出しました。

そこからはほぼ毎日ケンカでした。中学生になってからは、私へのいじめは無くなりましたが、他の誰かがいじめられているところを見るようになりました。私は見て見ぬふりをしていました。

中学二年になると、施設の担当が代わりました。新人の女性でした。最初は大嫌いでした。言うまでもなく、自分勝手な大人が大嫌いでした。その先生に手を出したことも少なくありませんでした。女性に手を出すなんて最低ですよ。（その先生に）中学三年の時に言われました。「本当に強い人というのは、ケンカが強い人ではなくて、心が強い人が、真の強い人だと思うよ」と…。突然、そんな

ことを言われても、意味なんて分かりませんでした。

そんな時、今度は調理場の先生（男性）に言われました。「相手を殴ると相手も痛いけど、自分も痛くないか？」と…。「知るか」と言って、行ってしまおう私に、その先生は、今度は、「男の拳は大切なものを守る時に使うものだ」と言いました。その時、「俺の拳の使い方って間違えていたんだ」と思うと同時に、新しく入ってきた女性の先生の言葉を少し理解しました。調理場の男性の先生は、私が施設に入った二才のときからいました。

それから、いじめ現場を見ると、相手が何人でも助けていました。誰かを守る以外のケンカもなくなりました。助けに行って、逆にやられることも多々ありました。相手が多くて勝てないと分かっている、見過ごせなくなり、今は、先生に言われた言葉は私の「宝物」です。

最近は「虐待」のニュースが多いように思います。この先何年経っても、虐待が無くなることは無いと思います。だけど、虐待を減らすことはできると思います。私はこのようなニュースを聞くと、怒りを通り越して、悲しいです。生きていれば、この先楽しいことがたくさんあったのに…。

全国の子を持つ人たちをお願いします。自分の子どもを傷付けることはやめてください。特にお母さん方をお願いします。自分のお腹を

痛めて生んだ子です。その時、憎くても一度は可愛いと思ったはずです。一度は愛した子です。どうか虐待なんてやめてください。一人でどうしようもない時は、児童相談所に相談してください。そのための児相（児童相談所）です。もうこれ以上、小さな命が無くなるのは嫌です。

私も小さい時は虐待されて嫌な思いをしましたが、生んでくれたことに感謝しています。十八才の時に、児童相談所で、何で施設に預けたのかを聞きました。ずっと聞けなかったことを…。その理由は私にとって予想外のものでした。母は、「お前が泣くし、言うことを聞かないから」と言うのです。それから、「お前だけ施設にいて辛かっただろうけど、お兄ちゃん、お姉ちゃんたちも、好きなものは買えずにずっと我慢していたんだよ」と言われました。その言葉を聞き、ずっと溜まっていたものが一気に破裂しました。児相の先生が止めに入りましたが、先生にも飛び掛かりました。母はびっくりしたと思います。今まで、何があっても、絶対に私が母に対して手を出すことは無かったからです。

私は涙を流しながら母を殴っていた、と児相の先生は言っていました。「好きなものが買えないくらい我慢しろよ。施設にいるからって、自分より小さな子どもに指差されたことあるのかよ」と思いながら殴っていたと思います。

私はたくさん辛い思いをしましたが、自分よりも辛い思いをしている人は何万といまいます。それを思えば、私なんて可愛いものです。今こうして生きているのだから。私のような子が一人でも減ることを祈りながら生きたいと思います。

マザーハウスのことを理解

してくれる職員さんがいて嬉しい

〇刑 Nさん

私の周りでは、職員さんや受刑者、友人・知人などの中に、マザーハウスに関心を持ってくれる人が少しずつですが増えていきます。私は、毎月のたよりの内容についても、仲の良い受刑者に、「今月はこんな内容だったよ」とか「今月号にこんな記事が載っていたよ」などといった話しているのです。

今年度の年会費として、三千円分の切手を同封して発信する際も、難色を示した職員さんもいたのですが、工場担当職員さんが、「この団体（マザーハウス）なら知っている。自分が上に話しておく」と言ってくれたので、スツと出せました。マザーハウスのことを理解してくれる職員さんがいることを嬉しく思いました。まだ理解が広まっていない刑務所もあるようですが、私はここでマザーハ

ウスに関して特に不便を感じたことはなく、有難く思っています。全国の刑務所（受刑者や刑務官）に、もっと理解が深まれば良いですね。

出所後のズレ

K 刑 N さん

今は、本気で自分を変えたいので、マザーハウスの回復プログラムを実践するため、教育課に「訴訟ノート」として許可を得て、学習帳に回復プログラムの答えを記入しています。

私自身、キリストの道に繋がってまだ一年半です。自分が何もかも分かっているとは決して思っていない。どうしても、精神状態の良い時は別として、状態の悪い時は気持ちがブレてしまい、俗的な考え方に支配されがちです。ただ、人から言われて訳分からずに行うのではなく、指導を受けながらもしっかりと自分で考え、自分自身の納得と責任と喜びをもって行うことが神の御心によるものである、と素直に思えることが、少しずつ多くなりました。そのことが喜びです。

私が今回、必死になる理由は、前刑、前々刑、と長期刑で感じた「かなりのズレ」です。

平静を装うつもりでも、全くそれが実行できず、気持ちの整理、切り替えのつかぬまま、あつという間に月日が過ぎてしまい、私の場合、全てがちぐはぐで混乱した状態でした。歯車が全くかみ合っていない状態（自分自身の中でも、対人・対社会でも）です。出所後、あまりの興奮状態で全く寝られなかったことから始まり、そして、情報量の圧倒的な違いを痛感しました。街中を普通に歩くだけで、恐らく、普段（全てが過剰に整理され、規則性がない、慣れた刑務所の中にいた時）の何百倍もの認知能力が必要とされるのではないのでしょうか。少なくとも私にとっては、出所後の世界はあまりにもカラフルで、刺激的で、どぎつく感じ、眩暈がしました。また、あらゆるノイズも全部拾ってしまう感覚に苦しみました。

人にも酔い、電車にも車にも酔い、あらゆる物事で神経がすり減っていくのですが、同時に、妙な焦燥感と脅迫観念的なものに突き動かされる部分もありました。生活のリズムを作っていく困難さを感じました。他には、人と接することへの怖さも感じていました。言葉もしどろもどろだったり、あるいは何も出てこなかったりすることも、前回社会復帰してから増えたような気がします。精神状態が多少なりとも落ち着いたと思ったら、次に感じたのは、身体が思うように動かない、ということでした。拘禁期間が長ければ長いほど、必ず感じると思います。

今まで長い間、一人で、更生とは何なのか、償いとは何なのか：考えてきました。長い受刑生活の中、一人でずっと考えていると、ジレンマのようなものに陥ることもしばしばです。しかし、これをきちんと見つめ直さない限り、同じ過ちや再犯に繋がる道に進む可能性が高いと思います。

これまでの自分：無意味な意地を張り、一人で悩み、勘違いして、自分自身の心のケアもできていないのに、いきがって社会に飛び出し、余裕が無くなり、自分で芽を潰し、再び刑務所に行くことになってしまったことを肝に銘じて生活していきます。幸いにも、私たち受刑者は、自己を悔い改めるための時間と動機には事欠きません。今やらずして、明るい未来は訪れません。



元・貴族は餃子好きさん
「辛夷の花に文鳥」（北斎）

視点を換えれば

きりさん

二月に、日商簿記の資格取得試験がありました。私はこれに挑戦して、二級の資格を得るに至りましたが、合格ラインすれすれの合格でした。

しかし、この合格までには、神様の助けというものが幾つもあったのです。

もともと、二級の資格は刑務所の官本のテキストでもイケると言われていたのですが、平成二十八年から大改定が徐々に行われ、今回の試験から、それら全てが刷新され、「これまでのテキストはほとんど役に立たない」状況に近くなっていたのです。

私はそれを、試験の申し込みを済ませた後で同囚から教えられて知り、愕然としました。「大丈夫だろう」と思っていたのが、「まずい」に変わったのです。テキスト等を揃える金もなく、たとえあっても、その時点で購入したのでは、手元に届くのが試験の一か月前くらいになる計算でした。

しかし、神様はとにかくにも、私が簿記の勉強をしていて古いテキストを使っているということ、同囚が知るようにされて、そして同囚を通して教えてくれました。これは

一つの救いでした。そのまま試験を受けていたら、見たこともない問題に多く直面していたのですから。

そして神様は次に私を動かされました。

元々あまり折り合いが良くなく、精神的な枷にもなっていた父親とは、なかなか手紙を出しても返事も来ない状況で、身元引受人も断られています。が、こと勉強に関することにだけは多少の理解を昔からしてくれていました。そこで、いつもの、手紙で話し合いを求めるアプローチとは違って、単純に、少ない報奨金での受験に失敗してムダ金にしたくない、購入しては間に合わない、その理由は云々だ：と試験の窮状だけで訴えて、たった一冊でもいいから問題集を買って送ってくれないだろうか？と頼む考えが浮かびました。普段ならそんなことはしないのですが、この心の動きも一つの導きです。

結果、一か月弱で一冊の問題集が差し入れられるという救いにあずかりました。「求めよ、されば与えられん」（マタイ七章七節）です。一筋の光を見ました。父が動かされたのです。

しかし同時に、数か月前に父が倒れ、死の淵を彷徨っていたことが手紙で知らされました。

たとえ不仲でも、私にとって親は特別な存在であり、それだけに手紙の返事がないこと

に憤りもしたりしていたのですが、この時には、当人は無理にしても、周囲の親族が、死にかけていた父のことを一切知らせてこなかったということに怒りを覚えました。自分が罪を犯したからとも言えますが、それでもこの点はドライには考えられませんでした。

後日、この時のこと、気持ちにMLPで相手に打ち明けました。「酷くないですか？」と自分の考えが中心ではない、と分かっている、も、書かずにいられませんでした。ですが、この時頂いた返事には、「教えてもらえなかったというのは淋しいですね」「でも、今回の試験の事（大改定のハプニング）がなければ（父親に手紙を出す決心がつかず、病なども）知らないままだったでしょう」「頼み事をしたこと、（問題集を差し入れてもらえて）勉強ができる機会と病気などの状況を知ることができて、二つの良い事があったのでは？」とありました。

まさにその通りなのです。伝えられた内容は悪い状況でしたが、一命を取り留めており、まだ生きているということが分かったのです。少なくとも父から返事を頂けたのです。つまり、このことを知らせるために、試験のハプニング、ピンチを神様が用意されたということになりましたが、このような見方ができずに、試験などそっちのけで、感情にとらわれた見方をしていたと気付きました。

傍（はた）から見れば何ということのない見方かもしれませんが、私にとっては、過去へのしがらみなどもあり、視野が狭くなっているもので、そうした時に外から気付かせてくれる人がいることを、有難いと改めて思いました。

そして、試験まで約二か月という短期間に関わらず、時間が足りないかと嘆きながらも、一から勉強をやり直した私を、神様はぎりぎりのところで合格させてくださいました。その恵みに感謝します。

看護師 中谷先生による

健康相談窓口

アンケート結果のご報告（別紙）

★今月号の健康相談窓口は、別紙、「健康調査報告書」に代えさせて頂きます。来月号をお楽しみに！

プリズムアート倶楽部

専門インストラクター ニロ先生による

「風鈴と団扇」



★このコーナーは、絵画の模写を体験するものであり、絵画技法の習得を目指すものではありません。模写（アレンジOK）の投稿を募集中です。

★当技法についての詳細を知りたい方、また、作品発表等について考えている方は、規定が設けられていますので、必ずご相談ください。

うに、B以上のもので濃く描くと、質感も柔らかく、描きやすいです。HBやH等ですと、固い質感の為、描きにくいかと思えます。

文通をされている方は、見本の絵を色々アレンジして、便箋や封筒に描くと、楽しく可愛いアクセントになりますので、ぜひお試しください。

【コツ】団扇や風鈴は、丸い曲線を意識して描き、風鈴の短冊は、風になびいている様に、長方形の線を直線で描かず、曲線で表現してみてください。

団扇の絵の向日葵と、植物の茎や虫の絵は、先月号で紹介させて頂いた形を使ってみました。先月号の絵に挑戦した方は、復習のつもりで描いてみてください。楽しく覚えられと思います。一つひとつの絵の形は、ハンドペイントの良さを生かして、不揃いでも、何でも構いません。

風鈴と団扇に、ボタニカルファインアート技法の植物や魚の絵をオリジナルアレンジしています。皆さんも工夫して、お楽しみください。絵は、自分の中のイメージを表現する事が大切なので、自由に、楽しみながら、表現されてください。

【解説】ボタニカルファインアート技法とパステルアートのコラボレーションで描いていますが、ボールペンや鉛筆等、入手し易い文具で描いてくださって結構です。ボールペンは、PILOTの細いペン等が推奨されていますが、描きやすいと感じるもので良いと思います。鉛筆は、形が見やすいよ

つぶやき！

最近、独居房に移り（調査・懲罰のためではございません）、人と話す機会がさらに減ってしまい、発声力がますます低下した気が…。なので毎日、サイレントボイトレ（ボイストレーニング）を行っています。さみしくないもん！（K J・M O T Aさん）

私が作業している工場は金属工場で、超暑いんです。連日三十度くらいあります。真夏は四十度くらいになります。脱水症状に気を付け、しっかりと水分を摂って元気に頑張りたいです。皆様もお体を大切に！（O 刑 Nさん）

手紙は私の分身です。私の代わりに挨拶したり、有難うを伝えたりしてくれます。私の分身は私と違って自由に何処へでも行けますが、時々、自分のことばかりになってしまったり、お願い事ばかりしたりしていることがあります。私自身がまだまだなのでしょね。皆さんの分身はどうですか？（華炎さん）

みんなの！回復プログラム 入門（誤字脱字以外 原文ママ）

テーマ

- ① 今年、私が「寂しい」と感じたことは何ですか。何故、私は「寂しい」と感じたのでしょうか。
- ② 私は「寂しい」と感じやすい方でしょうか（度々「寂しい」と感じますか）。どんなときに「寂しい」と感じやすいでしょうか。
- ③ ②での回答について、その原因をどう考えますか。

K J・M O T Aさん

- ①職業訓練が終わり、元の施設に戻ることが決まり、待っている期間。半年間だけではあったが、一緒に生活していた人と仲良くなり、いいリズムで過ごせていたから。それと、なぜか釈放前のような雰囲気になっていたから。
- ②そんなに感じない方だと思うが、昔に比べて考えると、もしかしたら感じやすくなっているかもしれない。社会の（外の）友人から手紙が来たときなど、さみしくなる。
- ③年を取ってきたから、その分生きていられる時間が少なくなっているわけだから、その中で「別れ」というものを経験していくと、寂しさは増していくのかも。友人とはまた会えるが、その思い出の中に、もう会えない、会わないであろう人を思い出すとさみしくなるし、切なくもなる。それも一種の「別れ」だと思うから。

G 刑 I さん

- ①先月神奈川県で多数の児童及び市民の殺傷事件のニュースを見て寂しいと感じた。尊い生命を亡くしたこともそうですが、加害者が重大事件後に自死してしまったから。
- ②以前はそれ程感じなかったが、今回私自身の重大事件を犯したことで生命の尊さを知り、なおかつ聖書を読むようになり、感謝の気持ち、隣人愛を知ることによって事件にかかわらず生命を亡くしたことを見聞きしたときに「寂しい」と感じる。
- ③年を重ねることにより、一人でいる「寂しい」ことを考えたり生命の重さを考えるようになった。

S 刑 O さん

- ①隣の人が、突然に入病して工場からいなくなってしまったので、寂しいと感じた。工場の作業席と食堂の席が、隣同士なので、急にいなくなってしまったので、寂しいと感じました。
- ②それほど寂しいとは感じません。やはり、急にいなくなってしまうと寂しいと感じます。
- ③度々寂しくなる原因は、いつも毎日のように顔を合わせて互いに、仲良く話していたので、急に姿がなくなっていた為に寂しい原因が考えられます。

回復プログラム 入門

★このコーナーでは、自分の心を書き出す練習をします。マザーハウスの回復プログラムに既に挑戦しておられる方も、ぜひ取り組んでみてください。

【コツ】綺麗に書こう、丁寧に書こうとせず、リラックスして、出てきた思いをそのまま乱雑に書き出す。後でやろうと思わず、一行書くだけでも、今やってみる（看板イラストの枠をお使いください）。

【補足】よろしければ、書いた内容を事務局にお送りくだされば幸いです（たより掲載の可能性もあるので、掲載を希望しない方は掲載不可と明記してください）。また、ノート等に写し、後で見返せるようにすることをおすすめします。

【8月号のテーマ：ホッとする時】

- ①最近、ホッとした経験はありましたか。それはどんなことですか。
- ②私が一番ホッとするのは、どんな時、何をしている時ですか。
- ③今の環境で、どうすれば、ホッとできるひと時を持つことができるでしょうか。

①

②

③

ご支援 本当にありがとうございます！

6月16日～7月10日の寄付金

合計： 226,000 円

（内 愛のプリズム宣教基金：13,000 円）

お知らせ・編集後記

お読みくださり有難うございます！たより製作の直前にパソコンを交換したところ、「同じ編集ソフトを使っているのに、いつも使っている文字のフォントに限って、何故か入っていない！！」という事態が発生し、そのため、今月号では、表紙から裏表紙まで、フォント&レイアウトを全とっかえする羽目になりました…読みやすくなっていますように！

★聖書を希望する受刑者の方は、郵送料800円分の現金書留または切手を、「聖書希望」と明記したお手紙と一緒に送ってください。

それでは、来月号もお楽しみに！

編集局

行事予定

▼8/19

マザーハウス・バーベキュー大会

▼8/24 14:00～

聖イグナチオ教会内 岐部ホール404号室にて、
対談「世間とは」（VIPプリズム）

▼9/1 ミサ終了後～

カトリック四ツ家教会（盛岡）にて、講演

▼9/6 17:00～

マリア・カフェにて、APS研究会

▼9/7 10:00～

マリア・カフェにて、当事者ミーティング

▼9/8 14:00～

聖イグナチオ教会内 岐部ホール404号室にて、
トーク「設立から5年間を振り返って」

マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）

＊製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX：03-6659-5270

メール：maria_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格：粉200g または 豆200g …… 900円＋税
カフェドリップ10g（1回分）…… 100円＋税



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま（順不同）☆

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック
所沢教会／カトリック浜松教会／カトリック東山教会／
カトリック布池教会／カトリック菊名教会／カトリック中
和田教会／カトリック新子安教会／カトリック碑文谷教会
／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック東仙台
教会／カトリック春日部教会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／
カトリック松戸教会／カトリック太田教会／カトリック大分教会／カトリック多
治見教会／カトリック芦屋教会／カトリック鷺ノ宮教会／ドン・ボスコ社／
クリスト・ロア宣教修道女会／日本カトリック神学院／聖母訪問会



☆ルワンダの祈り☆

ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺
がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワ
ンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥り
かねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。
マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用し
ております。

獄中POSTシリーズ

＊獄中ボランティアの方が描いた絵画や文字を、
ポストカード・封筒・便箋に印刷する企画です。

FAX：03-6659-5270

メール：motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org (QR ↑)

入手方法：講演会等での販売のほか、ご注文を受け付けております。

☆ポストカード／封筒は1枚300円、便箋は10枚300円

☆ホームページにカタログ（随時更新）がございます。

☆収益は全て、身寄りのない方の住宅支援に充てられます。

また、ご寄付・ご支援くださった方に、デザイン等ランダム
でお贈りしております。



マザーハウスたより 8月号

発行日：2019年8月15日 発行責任者：五十嵐 弘志
〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-17-102 NPO法人マザーハウス



↑ 理事長 Facebook ↑ 理事長奥さんブログ ↑ MLP問合せ

ラウレンシオ（便利屋業）

＊元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、
掃除などをさせていただきます。お見積りは無料です。

TEL：080-4614-8508

FAX：03-6659-5270

メール：lawrance@motherhouse-jp.org (QR →)



古本募金（きしゃぽん）

＊書籍やDVDを下記送り先にご寄付頂くと、

マザーハウスに還元されます。

送り先：〒358-0053 埼玉県入間市仏子916

マザーハウス きしゃぽん係

（マザーハウス事務所に送らないようお願いください）

TEL：0120-29-7000

カウンセリング

＊当事者やご家族の方を対象に、専門家がカウンセリングを行います。

※価格は別途かかります。

メール：counseling@motherhouse-jp.org (QR ↓)



お問合せ

いつも有難うございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL：03-6659-5260

メール：info@motherhouse-jp.org (QR →)

ホームページ：「NPO マザーハウス」でご検索ください。(QR ↓)



ご支援

☆正会員（一口5000円／年） ☆賛助会員（一口3000円）

☆社会復帰支援（ご寄付）を随時募集しております。

→振込口座名：

特定非営利活動法人 マザーハウス 【トクヒ）マザーハウス】

郵便振替口座 … 00170-0-586722

みずほ銀行 … 新宿支店 普通口座 2376980

☆洋服等の物資の送付先：

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-1F マザーハウス

(TEL：03-6659-2110)